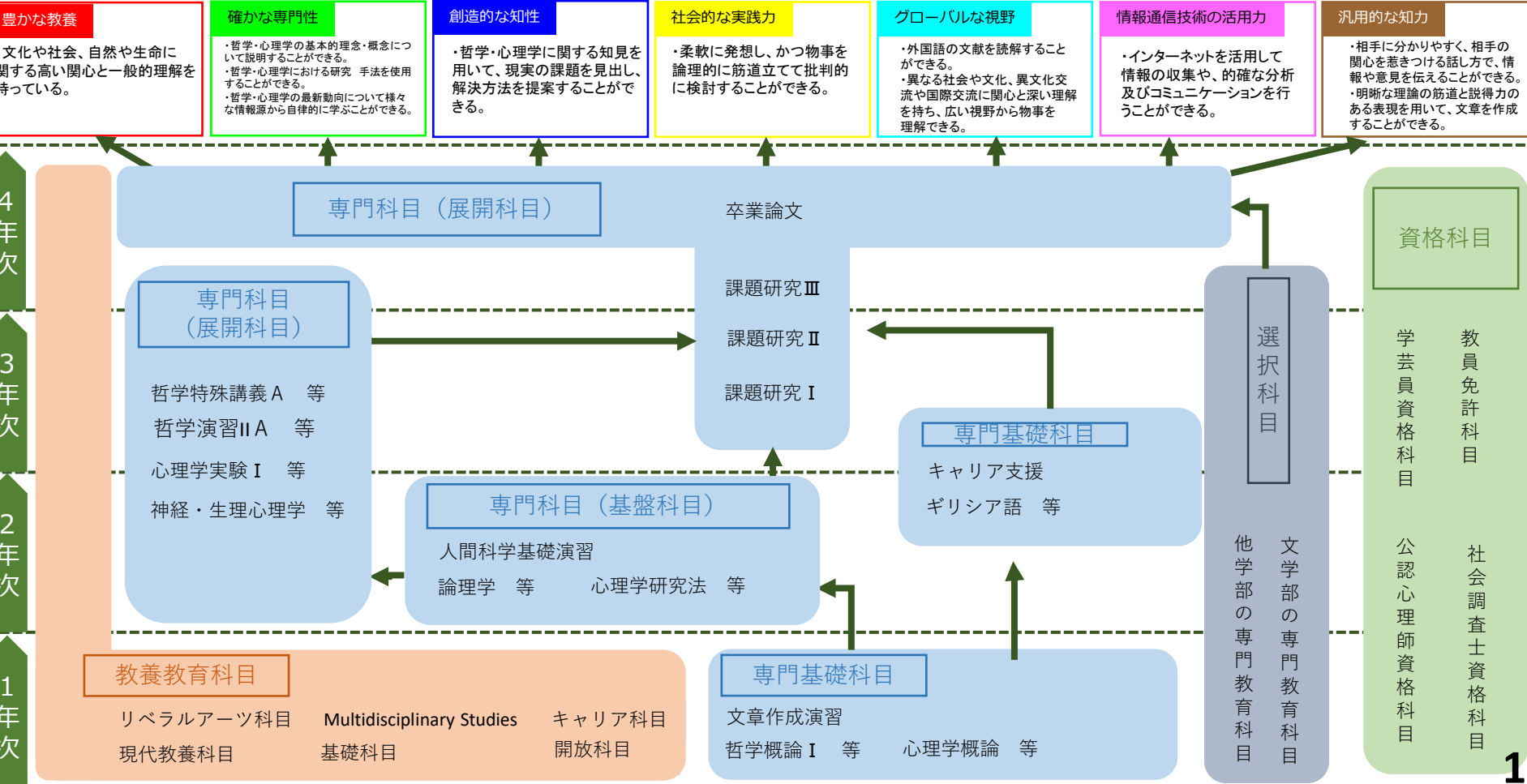


人間科学コース ディプロマポリシー：
人間科学コースは、学士課程教育において、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判断のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判断力(哲学)や実証的判断力(心理学)を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士(文学)の学位を授与します。

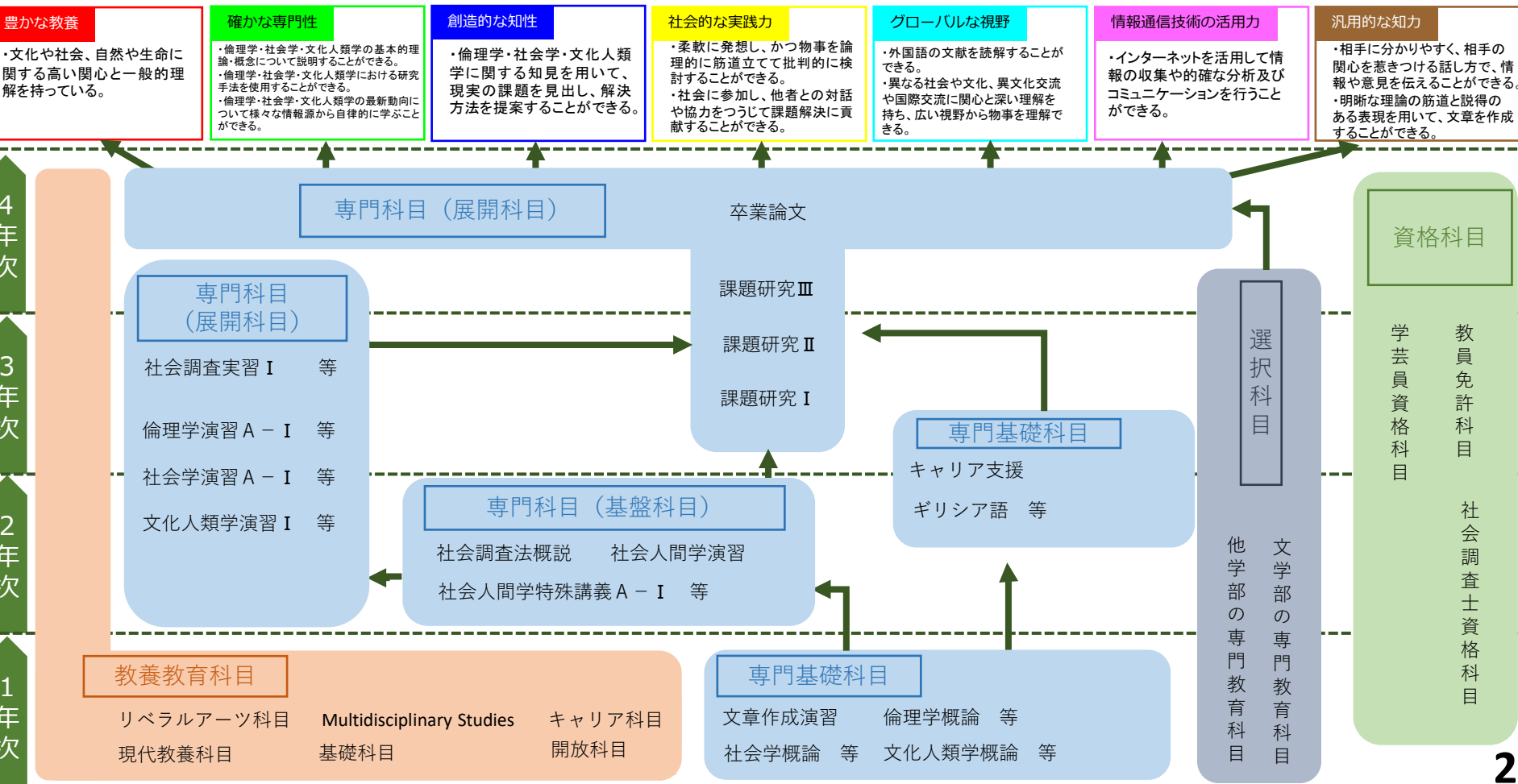
- ・人間科学(哲学・心理学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

人間科学コース カリキュラムポリシー
①教育課程編成の方針
体系性：人間科学(哲学・心理学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するように編成しています。
個別化(進路への対応)：3・4年次には人間科学(哲学・心理学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保证するように編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。



社会人間学コース ディプロマポリシー：
社会人間学コースは、学士課程教育において「社会的存在としての人間」という認識から出発し、現代における人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士(文学)の学位を授与します。
・社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
・論理的思考や学外での調査などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

社会人間学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するように編成しています。
個別化(進路への対応)：3・4年次には社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学や就職など進路に即した科目履修を保证するように編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)」、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習や実習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。



地域科学コース ディプロマポリシー：
地域科学コースは、学士課程教育において「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境（社会文化的・自然的環境）について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

地域科学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系的：地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化（進路への対応）：3・4年次には地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。

豊かな教養

文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

・地域社会学・民俗学・地理学の基本的理論・概念について説明することができる。
・地域社会学・民俗学・地理学における研究手法を使用することができる。
・地域社会学・民俗学・地理学の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心を持って行動できる。

グローバルな視野

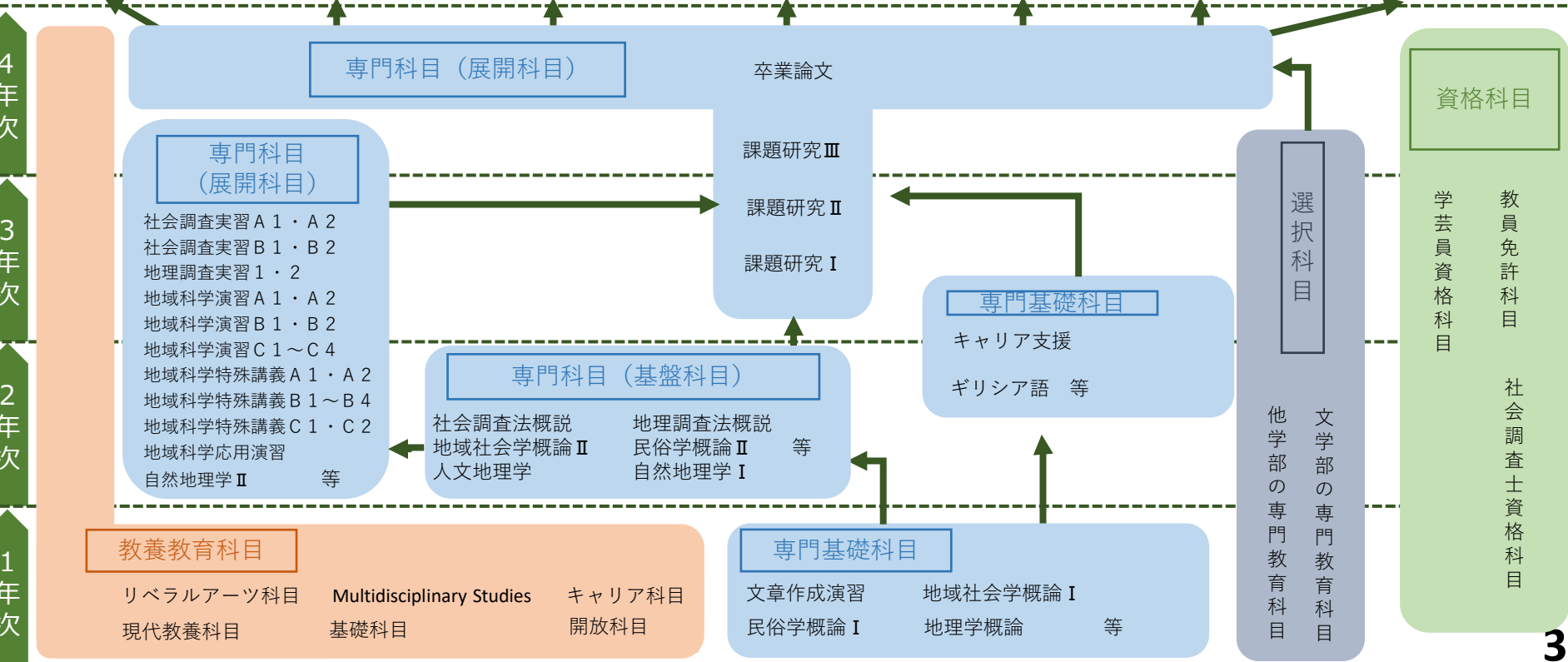
・外国語の文献を読解することができる。
・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

情報通信技術の活用能力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

・相手を理解し、相手に分かりやすく相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。



歴史資料学コース ディプロマポリシー：
歴史資料学コースは、学士課程教育において、文献史料や考古資料を的確な手法・技術で調査・分析する作業を通じて過去の歴史を読み解き、さらに人間や社会について真摯に考察するとともに、現代を含めた時代の本質を正しく理解したうえで現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・日本史学・考古学に関する専門的な知識や理論、技術を駆使して、主体的に史資料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

歴史資料学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：日本史学・考古学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するように編成しています。
個別化（進路への対応）：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保证するように編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。

豊かな教養

・歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解を持っている。
・自然・生命に関する基本的な理解・知識及び関心を持っている。

確かな専門性

・歴史学の重要な基礎知識・概念について理解し、説明することができる。
・日本史学・考古学の専門的な知識や理論、歴史について理解し、説明することができる。
・日本史学専攻においては古文書・古記録を整理・読解・分析する専門的な能力を持つことができる。
・考古学専攻においては遺跡・遺構・遺物を調査・整理・分析する専門的な能力を持つことができる。
・日本史学・考古学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集することができる。
・日本史学・考古学に関連した専門性の高い学術論文を読解することができる。
・日本史学・考古学に関する理かな専門性に基づき、柔軟な発想と論理的思考、説得力のある裏根を用いて学術的文章を作成することができる。

創造的な知性

・歴史学全般および日本史学・考古学の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。

社会的な実践力

・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
・文化財の保護・活用および博物館活動に寄与することができる。

グローバルな視野

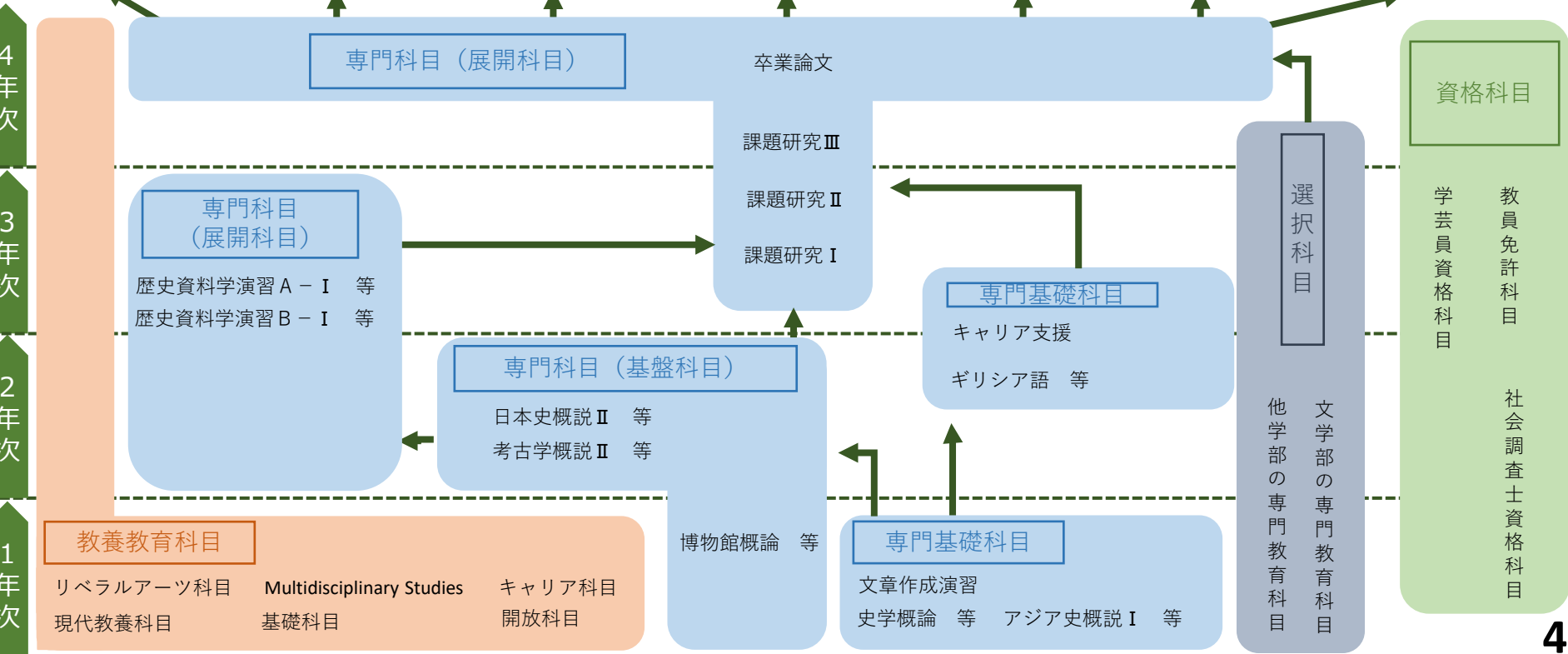
・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

情報通信技術の活用力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、他者と議論やコミュニケーションをすることができる。
・豊かな表現力と明確な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業、議論によって、問題解決を図ることができる。



超域歴史学コース ディプロマポリシー：
超域歴史学コースは、学士課程教育において、史料の総合的分析力に依拠した論理の実証力を基礎に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語(欧米諸語、漢文、中国語)運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

超域歴史学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化(進路への対応)：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保证するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

豊かな教養

・歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解を持っている。
・自然・生命に関することに関心と基本的な理解・知識を持っている。

確かな専門性

・歴史学の基本的な概念・理念について理解し、説明することができる。
・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
・歴史学における研究手法を使用することができる。
・歴史学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集することができる。
・歴史学に関連した抽象度の高い学術論文を理解することができる。
・歴史学研究に必要な外国語文献(英語、漢語、中国語)を読解できる。

創造的な知性

・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。

社会的な実践力

・柔軟かつ論理的な思考力を基礎に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
・市民社会の一員として、人権問題や社会的マイノリティにかかる問題に理解と関心を持つことができる。

グローバルな視野

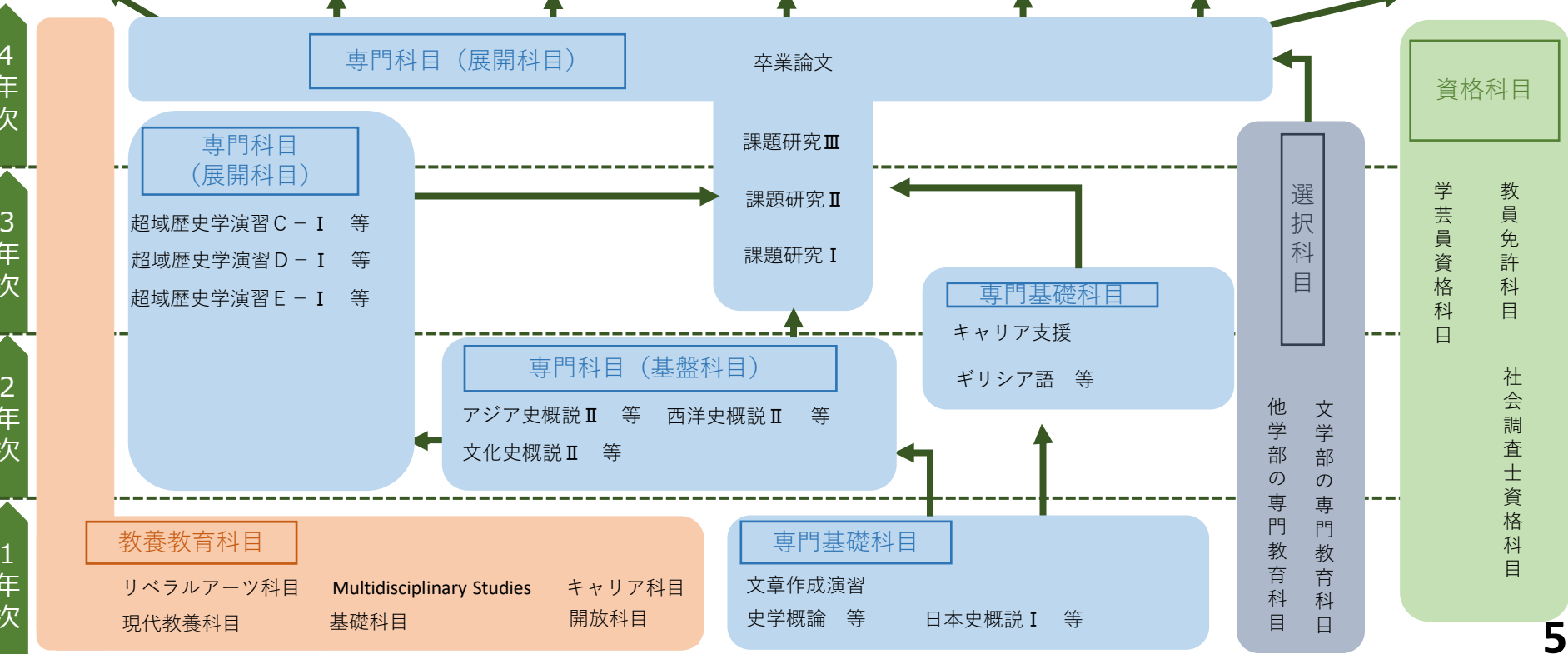
・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

情報通信技術の活用力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で意見や情報を伝え、相手と議論やコミュニケーションをすることができる。
・豊かな表現力と明確な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業(議論)によって、問題解決を図ることができる。



東アジア言語文化学コース ディプロマポリシー：
東アジア言語文化学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用能力を活かして、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を習得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

東アジア言語文化学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：日本語日本文学および中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化(進路への対応)：3・4年次には日本語日本文学および中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。

豊かな教養

・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

確かな専門性

・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・概念について説明することができる。
・東アジアの言語や文学、文化における研究手法を使用することができる。
・東アジアの言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

グローバルな視野

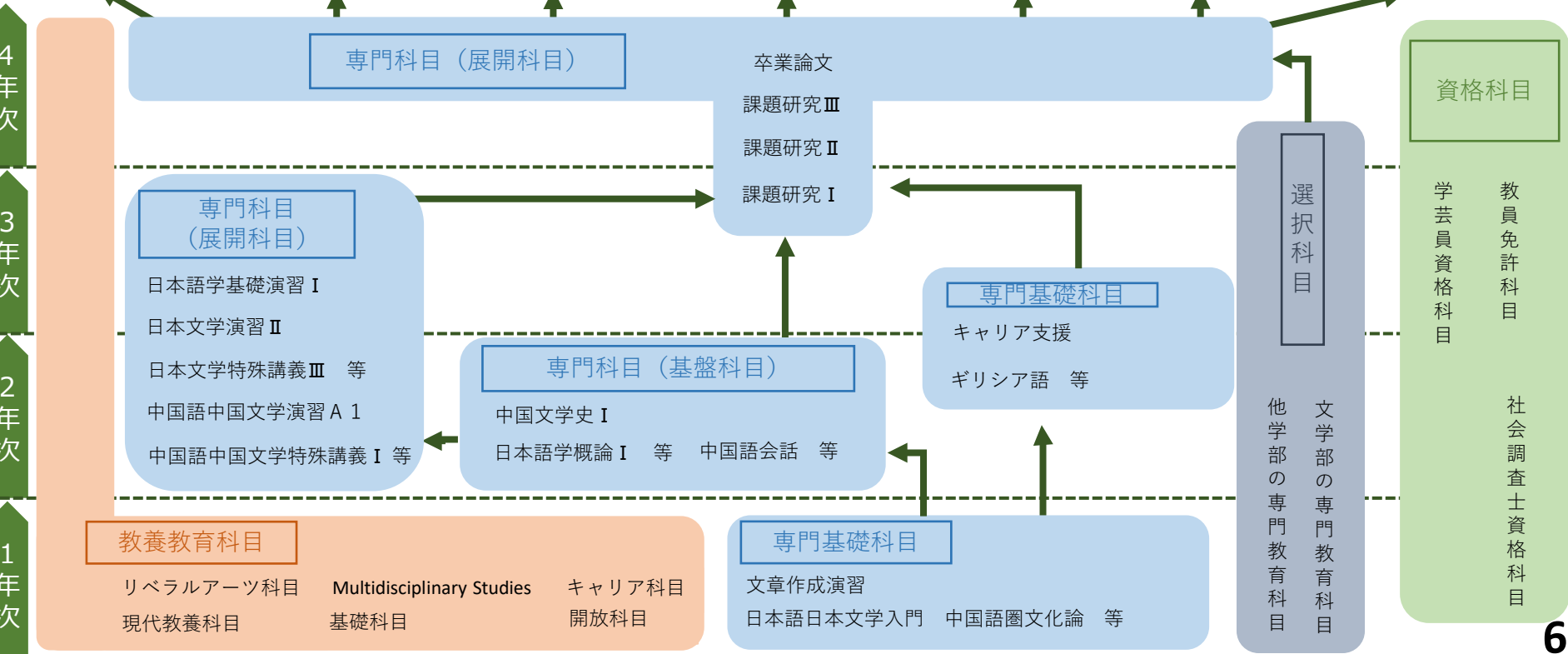
・外国語の文献を読解することができる。

情報通信技術の活用力

・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

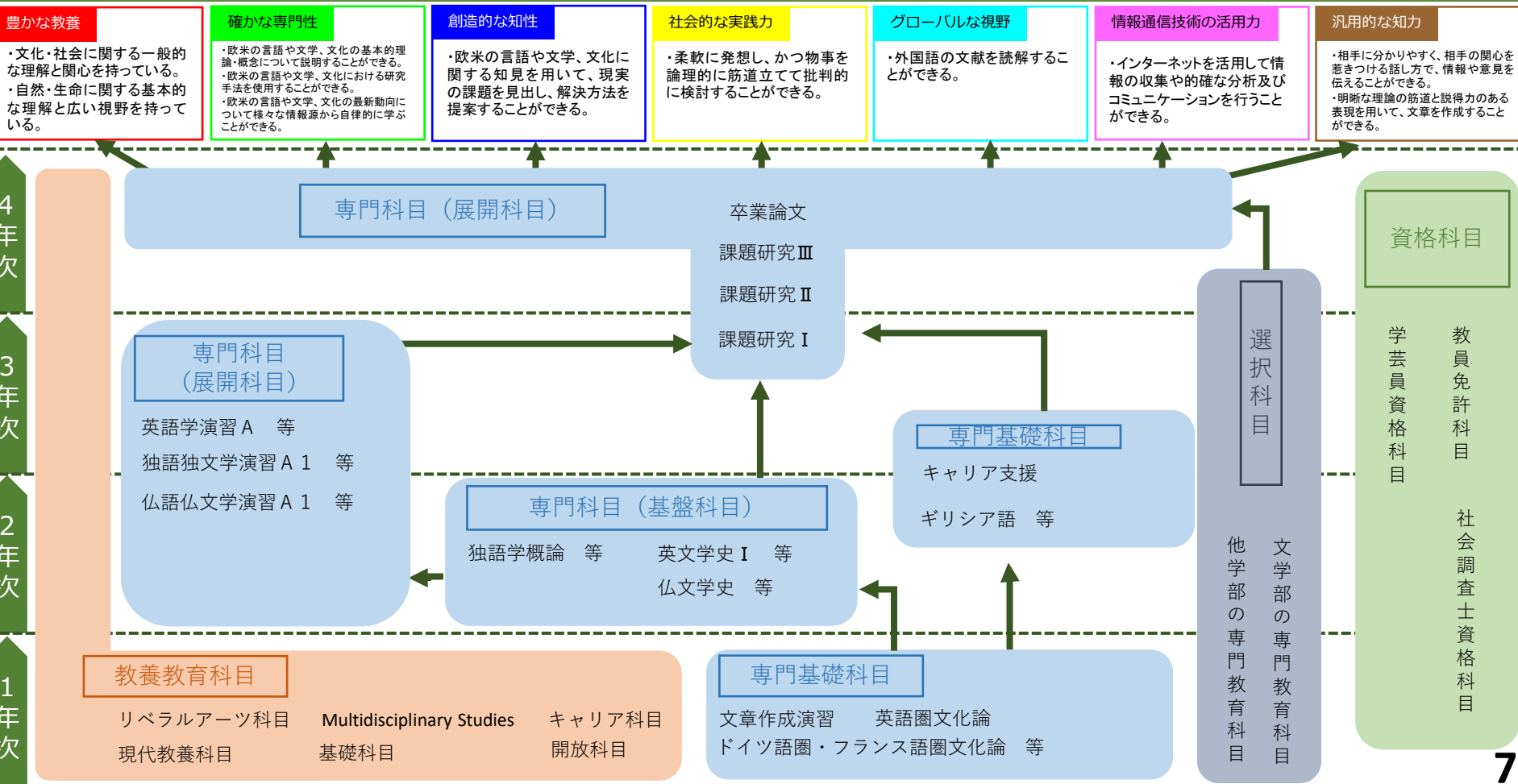
・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。



欧米言語文化学コース ディプロマポリシー：
欧米言語文化学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用力を素地としながら、英語・ドイツ語・フランス語の実践的な運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語・ドイツ語・フランス語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・欧米の言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・欧米の言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

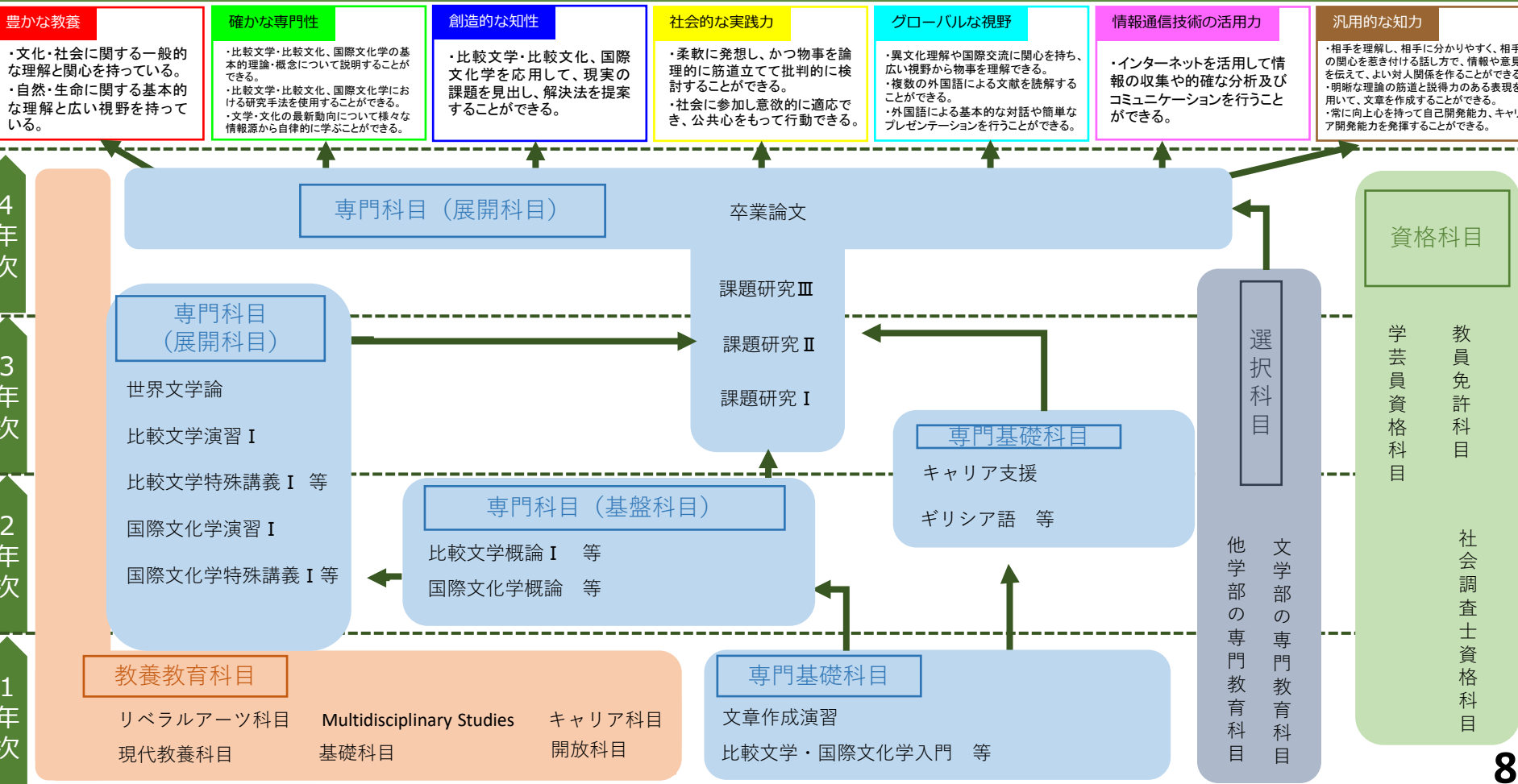
欧米言語文化学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化(進路への対応)：3・4年次には欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。



多言語文化学コース ディプロマポリシー：
多言語文化学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用能力をもとに、専門教育では異文化接触がもたらす文化変容、もしくは人類の言語文化およびその精華である文学作品の諸相に関して、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、比較文学、国際文化学の視座から新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学位(文学)を授与します。

- ・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的概念・理論について説明できる。
- ・比較文学、国際文化学に関する知見を用いて、今日的課題を発見し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

多言語文化学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：比較文学および国際文化学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化(進路への対応)：3、4年次には比較文学、もしくは国際文化学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、進学或いは専門職への就職の進路に即した科目履修を保证するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。



現代文化資源学コース ディプロマポリシー：
現代文化資源学コースは、学士課程教育において、有形・無形のさまざまな文化資源を収集・分析・整理する能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、文化資源の持つ多面的な価値を理解し、次世代が活用しうる資源として発信できる能力を高め、価値の多様化が進む現代社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・地域固有の文化を記録することについて深い関心を持ち、記録のもつ価値についてわかりやすく説明できる。
- ・異文化交流・国際交流に関心を持ち、文化的背景の異なる人に対して、自分の知っている文化について伝えることができる。
- ・情報メディアを通じて、画像・動画や音声を含む文化に関するさまざまな資料を活用しやすい形で発信できる。

現代文化資源学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系的性：現代文化資源学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化(進路への対応)：コースを構成する各教育分野の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

豊かな教養

確かな専門性

創造的な知性

社会的な実践力

グローバルな視野

情報通信技術の活用能力

汎用的な知力

